

募集案内

2025 年度「インターンシップ専門人材研修会」

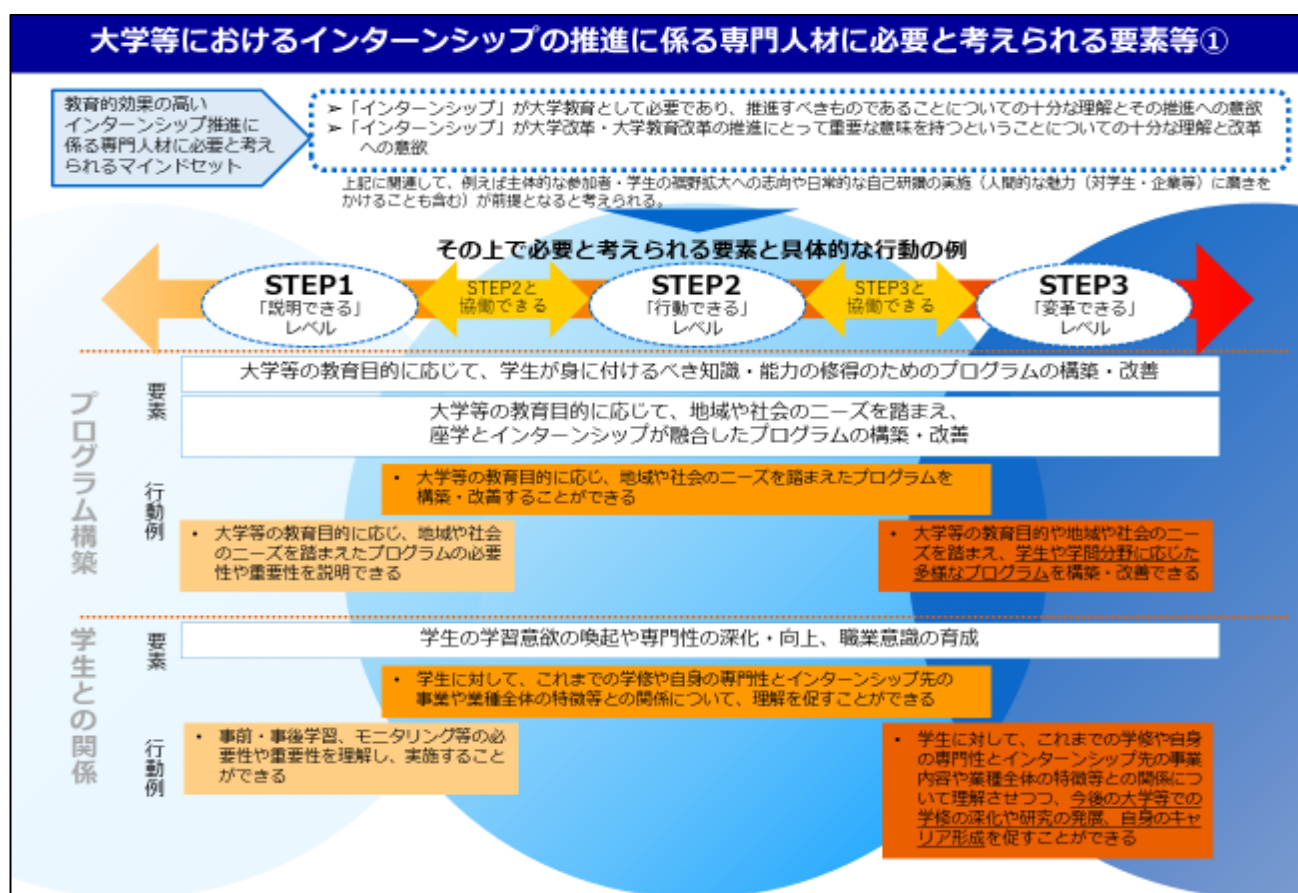
【実践編:STEP2】(9期)

【発展編:STEP3】(8期)

一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム(CIAC)は、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)と協力し、インターンシップ専門人材の育成を推進しています。本研修会は、文部科学省「大学改革としてのインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」(2018 年)に基づき、全国の大学等におけるインターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援の担当者の育成及び質向上を目的としています。

上記文書では、専門人材育成のための3段階の枠組み(STEP1～STEP3)が提示されており(下図参照)、【STEP1】(「説明できる」レベル)は JASSO が開催する「インターンシップ専門人材セミナー～基礎編～」が担い、【STEP2】(「行動できる」レベル)、【STEP3】(「変革できる」レベル)は、本研修会が担っています。各ステップを段階的に受講することで、インターンシップに関する知識・実践力・制度設計力を着実に習得できます。これまでに 200 名以上の方が参加しており専門人材の育成の場として高い評価を得ています。

文部科学省「大学改革としてのインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」



本研修会においては、産学協議会がインターンシップとして提示定義する「タイプ3」「タイプ4」に限定せず、「タイプ1」(オープン・カンパニー)、「タイプ2」(キャリア教育)も含め「インターンシップ専門人材」という名称を使用しています。

こんな方におすすめです

- インターンシップの本質を理解し、実践に活かせる具体的な手法を学びたい方
- 自大学のインターンシップを客観的に見直し、教育的効果の高いプログラムへと改善したい方
- 他大学の事例やフィードバックを通じて、新たな視点や発想を得たい方
- 実践的なグループワークを通じて、課題を深く掘り下げたい方
- 学内で理解者や相談できる相手が見つからず、ひとりで課題に向き合っている方

研修会の特長

- 文部科学省の公式枠組みに準拠した信頼と安心のプログラム構成
- 実践的な内容で、自大学のプログラム改善に活かせる具体的なヒントが満載
- グループワークを中心とした他大学との対話から生まれる新しい発想
- 企業担当者と直接対話し、双方の役割、メリットを再考する機会
- 日本で唯一の専門人材の資格認定機関が実施する満足度 97%、200 名以上が参加した実績

開催概要

1. 開催日時 【実践編：STEP 2】【発展編：STEP 3】ともに2日間のプログラムです。

【実践編：STEP 2】

日 程		時 間	開催方法
1 日目	2025 年 11 月 28 日 (金)	両日とも 9:30～17:00	ZOOM によるオンライン
2 日目	2025 年 12 月 5 日 (金)		

【発展編：STEP 3】

日 程		時 間	
1 日目	2026 年 2 月 13 日 (金)	9:30～17:00	ZOOM によるオンライン
2 日目	2026 年 2 月 27 日 (金)	10:00～17:00	対面（開催場所は以下の通り）

■対面開催場所：デジタルハリウッド大学
(東京都千代田区神田駿河台 4-6 御茶ノ水ソラシティ アカデミア 3F/4F)
<https://www.dhw.ac.jp/access/>

2. 募集定員 各回 30 名 ※定員に達し次第、受付を終了いたしますのでご了承ください。

3. 受講対象者（条件）

【実践編：STEP2】 原則として以下①～⑤全てに該当する方

- ① JASSO 主催「インターンシップ専門人材セミナー ～基礎編～」の受講を修了している（過年度でも可）もしくは、同等の経験、実績等を有している（自己評価・認識で構いません）
- ② 自大学等のインターンシップ（企画・立案、運営、授業等）に概ね1年以上携わっている
- ③ 自大学等のインターンシップに関する内容、資料等（シラバス等）を共有できる（可能な範囲で可）
- ④ 高等専門学校、短期大学、大学等の高等教育機関に所属している教職員
- ⑤ 事前課題を完了し、2日間全てのプログラムに出席できる

【発展編：STEP3】 原則として以下①～⑤全てに該当する方

- ① CIAC 主催「インターンシップ専門人材研修会【実践編：STEP2】」の受講を修了している（過年度でも可）
- ② 自大学等のインターンシップ（企画・立案、運営、授業等）に概ね3年以上携わっており、プログラムの構築、改変に携わることのできる立場にある
- ③ 自大学等のインターンシップに関する内容、資料等（シラバス等）を共有できる（可能な範囲で可）
- ④ 高等専門学校、短期大学、大学等の高等教育機関に所属している教職員
- ⑤ 事前課題を完了し、2日間全てのプログラムに出席できる

4. 修了証/認定書の発行及び資格認定

【実践編：STEP2】 全プログラムを受講された方に「修了証」を発行します。

【発展編：STEP3】 全プログラムを受講された方に「修了証」を発行します。

■ 「CIAC 認定インターンシップコーディネーター」登録について

「発展編：STEP3」を修了された方のうち、希望する方には、「CIAC 認定インターンシップコーディネーター」として認定し、登録ができます。（別途手続きが必要になります）

登録者は、名称及びロゴマークの使用（名刺等への記載等）が可能になります。

2025 年 4 月時点で 82 名が登録しています。



CIAC 認定
インターンシップコーディネーター

5. インターンシップ専門人材コミュニティへの参加

CIAC では、インターンシップ専門人材の社会的認知度の向上、継続学習、ネットワーク構築を進めています。本研修会の参加者には、以下のような機会を提供しています。

- 参加者限定のグループメールに登録（任意）することにより、インターンシップに関する最新情報、参加者からの様々な情報提供を受けることができます。
- 参加者限定のブラッシュアップ研修会、CIAC コラボカフェ、その他等イベントに参加することができ、その後の継続学習の機会を得ることができます。
- セミナー、フォーラム等への登壇、高等教育専門誌への寄稿等、自大学の取組成果を発信する機会を得ることができます。
- 他大学との連携、地域連携、プログラム開発、学内研修等、CIAC によるコンサルテーション、サポートを受けることができます。

6. 具体的な研修内容

※研修内容は予定です。変更になることがありますので、ご了承ください。

実践編：STEP2 「行動できる」レベル

**自大学におけるプログラムを客観的に総点検し、できている点、改善すべき点を明確にします！
直ぐに活用できるコンテンツ等を提供します！**

【到達目標】

- ① 教育的効果の高いインターンシップの実施・運営のポイントを理解し、自大学の現行プログラムを客観的に評価・点検することで改善・改良することができる
- ② 高等教育の現状や政策的動向を把握し、その中で自大学の理念、特色、位置づけを認識することで、組織上、プログラム上の課題を抽出し、地域や社会のニーズを踏まえた改善案を提案、実行することができる
- ③ インターンシップを担当する意義や大学全体における役割を理解し、学内外の先進的事例を援用しながら率先して取り組み、高い成果を生み出すことができる
- ④ 教職協働の視点で、学内の他部署とネットワークを形成し、どの部署と協働すると効果的に業務が遂行できるか把握し、必要に応じて他部署と連携、調整を図りながら意欲的に業務を遂行することができる
- ⑤ 受入企業等と良好な関係を継続してプログラムを実行するとともに、企業、大学双方の目的をすり合わせ、新たな受入企業を開拓することができる

1日目 (11月28日)

■オープニング：研修の目的、進め方等

【セッション1】 担当：松高 政

大学教育におけるインターンシップの意義

- ・これまでのインターンシップの現状と課題
- ・自大学における実施目的・教育的効果の明確化
- ・「三省合意」改正後の対応と現状

【セッション2】 担当：佐々木 ひとみ

「インターンシップ専門人材」の意義と役割

- ・大学教職員としての立ち位置と関わり方
- ・「インターンシップ専門人材」が抱える課題と問題意識
- ・「インターンシップ専門人材」としての意識・心構え

【セッション3】 担当：小島 裕子/松高 政

「インターンシップ専門人材」のリアルな姿

- ・「インターンシップ専門人材」の具体的業務
— その意義と留意点
- ・多様な学生への対応と支援
- ・学内外の連携構築と理解促進

【個別相談会・情報交換会】

2日目 (12月5日)

【セッション4】 担当：松高 政

教育的効果を最大化するプログラム設計

- ・学修プログラムの全体設計
- ・事前・事後学習のプログラム
- ・就業期間のモニタリングとフォロー

【セッション5】 担当：上野 恵美

企業との協働関係構築・維持するためのポイント

- ・「教育的効果」と「企業メリット」を両立させるためのプログラム設計
- ・「三省合意」改正に対応した企業との関係
- ・就業期間中のリスク管理

【セッション6】 担当：加治屋 佳奈/松高 政

企業視点でインターンシップを再考する

- ・企業側から見たインターンシップの現状
- ・インターンシップと採用との関連
- ・大学とより良い協働関係を構築するために

まとめ：学びの総括と行動計画の立案

■クロージング：修了式

他大学との差別化につながる新たなプログラムを考えます！

大学・企業担当者が合同で実現可能性のあるインターンシップを構築します！

【到達目標】

- ① 教育的効果の高いインターンシップの実施・運営のポイントを理解し、大学（教育）改革につながる新たなプログラムを企画立案・提案し、実施することができる
- ② 高等教育の現状や政策的動向を批判的に分析・検討し、その中で自大学の理念、特色、位置づけ、課題を抽出し、地域や社会のニーズを踏まえた先導的・革新的プログラムを作り出し、実行することができる
- ③ 大学全体の課題を抽出し、改善のためのデータ、情報を収集・分析し、教育目的に応じたインターンシップ推進の具体案を策定・実行する上で、指導的役割を果たし高い成果を出すことができる
- ④ 執行部、関係部署の責任者が納得する説明ができ、他部署と合意形成を図り自他のモチベーションを高めながら全学的な視点でリーダーとして業務を遂行することができる
- ⑤ 受入企業等と良好な関係を継続し、新たな受入企業を開拓するとともに、受入企業の課題を把握し、課題解決の方法を考え、協働して実行することができる

1日目（2月13日）	2日目（2月27日）
■オープニング：研修の目的、進め方等 【セッション1】 担当：松高 政 大学教育におけるインターンシップの可能性 ・ 「三省合意」改正を踏まえたインターンシップの今後の展開 ・ 「大学改革としてのインターンシップ」の捉え方 ・ 自大学のインターンシップの捉え直しとインターンシップ専門人材の役割 【セッション2】 担当：原 正紀 大学教育とインターンシップのイノベーション ・ 自大学の現状に関する情報収集と整理・分析 ・ 自大学の現行プログラムとありたい姿 ・ 自大学の課題解決のための具体的アイデア立案 【セッション3】 担当：佐々木 ひとみ 学内意見の形成と協力体制の構築 ・ 執行部への理解促進と提案のポイント ・ 他部署との連携のあり方 ・ 現場と執行部との協力体制の構築 【個別相談会・情報交換会】	■2日目は企業担当者と合同・対面で実施します。 ■大学担当者、企業担当者混成のグループワークで以下のテーマについて考えます。 ① 理想のインターンシップを考える 大学、企業双方に意義ある実現したい理想のインターンシップ像を構想 ② 実現を阻む課題の洗い出し 現場で直面する課題や阻害要因を整理し、大学、企業それぞれが理解・共有 ③ 課題を乗り越えるためのアクション検討 解決できる/出来ない課題を整理し、具体的な施策や組織内への働きかけ等解決に向けての方策を検討 ④ 持続可能な運営に向けた視点共有 大学と企業の協働体制の構築、組織内の運営体制、採用以外のメリットの創出等について検討 ⑤ 実現可能性のあるインターンシップを提示 ⑥ 組織内で承認される具体的な提案方法を検討 まとめ：学びの総括と行動計画の立案 ■クロージング：修了式

8. 講 師

インターンシップ、キャリア教育、大学経営、人材育成、新卒採用に精通した講師がファシリテートします。

松高 政 (CIAC 代表理事/京都産業大学 経営学部准教授) ※



教育サービス系企業において、大学におけるキャリア教育に関する調査研究、企画開発に携わり 2007 年 4 月より京都産業大学に在職。文科省「インターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議」委員、経産省「教育的効果の高いインターンシップの普及に関する調査委員会」委員等を多数歴任。JASSO「インターンシップ専門人材セミナー～基礎編～」メインファシリテーター/講師。主な編著書『インターンシップの教科書』『大学教育を変える、未来を拓くインターンシップ』等。

原 正紀 (CIAC 理事・事務局長/株式会社クオリティ・オブ・ライフ 代表取締役社長)



早稲田大学法学部卒業後、製造業を経てリクルートへ入社し企業や官公庁、大学等へ提案活動を行った後に起業。多数の企業の成長・変革や官公庁や教育機関のプロジェクト受託も行う。著書は『定年後の働き方は 40 代で決めなさい』『採用氷河期』など 10 冊以上、年間講演は 50 回以上。「キャリア教育アワード」等国や自治体の委員経験多数。高知大学客員教授、筑波大学講師、(特非) キャリアコンサルティング協議会事務局長、(一社) 留学生支援ネットワーク理事、日商雇用政策懇談会座長代理。

佐々木 ひとみ (CIAC シニアコンサルタント/学校法人東京家政学院理事・同大学特任教授) ※



上智大学文学部卒業、筑波大学大学院教育研究科修士課程修了。元早稲田大学常任理事・元キャリアセンター長。早稲田大学で長年キャリア支援に取り組む。同大の全学部共通科目「インターンシップ」授業の立ち上げ時には、担当教員の調整から企業開拓、提出書類のフォーマット作成までプログラム全体の形を整備した。その後、キャリアセンター長としてキャリア事業統括を行うと同時に、経団連の産学協議会委員として、今回のインターンシップ・プログラムの改訂にも関わる。

上野 恵美 (CIAC プログラムディレクター/下関市立大学教養教職機構准教授・附属リカレント教育センター長) ※



大学卒業後、地方銀行入行。退職後、自営業を経て、ジョブカフェで大学生を中心とした若年者に対する就職支援を行う。法人化 1 期生として下関市立大学に入職し、キャリアセンター立ち上げ、キャリア教育の構築を行う。また、16 年間インターンシップ実施運営に携わる。2022 年度末退職後、2023 年度より教員として採用され、キャリア教育、インターンシップを担当。リカレント教育センター長として社会人教育にも力を入れる。CIAC 認定インターンシップコーディネーター。

小島 裕子 (CIAC ディレクター/湘北短期大学キャリア教育センターインターンシップ課)



商社勤務等を経て 2007 年より現職。事前学習授業「インターンシップリテラシー」のプログラム開発、先輩が後輩を指導する「インターンシップティーチング」の授業講師も担当。18 年間インターンシップ業務に携わり、自身で実習先企業開拓をしながら、年間延べ 400 名以上の学生と 100 社以上の企業の対応を行う。2018 年文部科学省「大学等におけるインターンシップ表彰」優秀賞受賞。キャリアコンサルタント、産業カウンセラー、CIAC 認定インターンシップコーディネーター。

加治屋 佳奈 (株式会社ソフトウェア・サービス 人財部 マネージャー)



損害保険の営業職、病院の広報職を経て、中途入社で現職。新卒採用業務に従事し現在 12 年目。社員数 1,800 名に対し、毎年 150 名以上の新卒採用の戦略立案、インターンシップ等のコンテンツ設計から実施まで多岐に渡る業務を担当。人事として採用に関わりながら、大学のキャリア教育授業やインターンシップ専門人材セミナーへの登壇、文部科学通信の原稿執筆なども行う。「CIAC 認定インターンシップコーディネーター」企業担当者 1 期生を目指し、現在研修受講中。

※印は令和 7 年度日本学生支援機構キャリア教育・就職支援事業に係る協力者

9. 受講申込等

(1) 申込方法

- ・以下の申込受付フォームよりお申込みください。

申込受付フォーム : <https://forms.gle/xEQonUAZwxL8Mg9r7>

(2) 申込締切 【実践編：STEP2】 2025年11月14日（金）

 【発展編：STEP3】 2026年1月30日（金）

(3) 受講料 【実践編：STEP2】 お一人 25,000 円

 【発展編：STEP3】 お一人 25,000 円

※申込受付後に、振込み等の詳細についてご連絡いたします。

(4) キャンセルポリシー

- ・実践編は〈2025年11月25日（火）17:00〉まで、発展編は、〈2026年2月10日（火）17:00〉までは無料（但し、振込手数料を差し引いた金額）でキャンセルをお受けします。
上記日時を過ぎた場合は全額をご負担いただきますのでご了承ください。

(5) 個別相談会・情報交換会

【実践編：STEP2】1日目（11月28日）終了後に1時間程度の個別相談会・情報交換会を開催いたします。課題、お悩みの個別相談、意見・情報交換の機会となります。ご参加は任意ですが、是非ご参加ください。

(6) 懇親会の開催

【発展編：STEP3】の2日目（2月27日）終了後17:30より、研修会場（デジタルハリウッド大学）にて懇親会を開催いたします。参加ご希望の場合は入力フォームからお申込みください。別途参加者4,000円を受講料と合わせてお振込みください。

大学、企業担当者とのネットワークを築く機会となりますので、是非ご参加ください。

「2025 年度インターンシップ専門人材研修会【実践編】【発展編】」の開催にあたって ー専門人材育成の考え方と体系的な育成システムの構築についてー



独立行政法人日本学生支援機構 学生生活部長 佐藤 稔晃 様

国際化・情報化の進展、産業構造の変化など、日本の社会・経済の変化に伴い、就業構造とともに求められる人材も大きく変わり続けています。人材育成の核となる大学等においては、そのような変化にも対応し、社会にとって新たな価値を創出・創造できる人材を育成することが求められる中、インターンシップは、産学連携/産学協働による学生のキャリア形成支援として重要な取組です。

政府では、1997（平成 9）年に、文部省、通商産業省及び厚生省（それぞれ、現在の文部科学省、経済産業省及び厚生労働省）の連名による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（いわゆる「三省合意」）を示した以降、キャリア教育・専門教育としての意義の明確化や専門人材の育成・確保の必要性を明記する（2014（平成 26）年）などの改正もしつつインターンシップを推進し、その後 2022（令和 4）年 4 月に、経団連と大学団体代表者などからなる「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」が公表した「産学協働による自律的なキャリア形成の推進」の中で整理された「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」の 4 類型を踏まえ、同年 6 月には、「インターンシップを始めとする学生のキャリア形成支援に係る取組の推進に当たっての基本的考え方」として三省合意を改正しています。この改正により、インターンシップは「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行う活動」と再定義されました。

インターンシップをはじめとする教育的効果の高いキャリア形成支援の取組を推進するためには、大学等、学生、企業の三者が、再整理された定義や類型の理解の下、インターンシップの教育的意義や内容について共通認識を構築することが不可欠です。そして、大学等においてインターンシップを推進する専門的な人材（インターンシップ専門人材）の育成・配置がより重要となっています。

このインターンシップ専門人材の役割には、大きく分けて、教育的効果の高いプログラムの構築・運営と、大学等と企業との調整に基づく学生と企業のマッチングの 2 つがあり、2018（平成 30）年 5 月 31 日付け文部科学省事務連絡「大学改革としてのインターンシップの推進に係る専門人材の育成・配置について」において、その役割に基づく具体的行動例がレベル別に示されています。

そして、インターンシップ専門人材を効果的に育成するためには、関係機関が連携して体系的な育成システムを構築し、提供することが求められることから、2018（平成 30）年度以降、日本学生支援機構（JASSO）と一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム（CIAC）が、役割分担を明確にしつつ密接な連携を図り、同事務連絡が提示しているインターンシップ専門人材に必要とされる行動例の各ステップ（STEP 1 から STEP 3）のうち、JASSO が STEP 1（基礎編）に、CIAC が STEP 2（実践編）及び STEP 3（発展編）に対応するセミナーや研修会を実施しています。

一方で、JASSO が隔年で実施する「大学等における学生支援の取組状況に関する調査」結果（令和 5 年度調査）において、インターンシップの実施にあたり、「インターンシップ専門人材の育成・配置」を課題として認識する割合が増加し、また、インターンシップに関する専門的な研修を受講したものがいないとする学校も半数以上あることが確認されています。

そのような点を踏まえても、JASSO 及び CIAC が開催するセミナー・研修会等が各大学等における専門人材の育成・配置、インターンシップの推進・充実等の一助となることを願っています。

過去の参加者からの感想

参加者満足度は毎年 97%!!

他大学の事例を知り、本学の課題が明確となった。次年度のプログラム改定点を職員と教員にどのような資料を用いて説明するとよいか
が整理できた。（地方私立大学・教員）

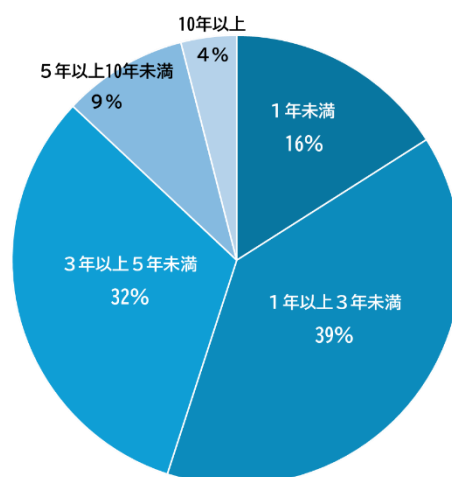
企業・学生・大学の理解者として、時代の変化に合わせて国の方針に
添って進化させるべきことが学べた。またインターンシップ以外にも業
務があり、企業・学生の間で業務過多の状況で、他大学でも同様の
環境で孤軍奮闘されている仲間がいることに勇気をいただきました。
（地方国立大学・職員）

三省合意の内容のみならず、合意に至った経緯・過去の流れについても詳しく知ることができ、新たな情報を得ること
ができました。また様々な問題を参加者の皆様と共有することで、現在抱えている問題の解決に向けた道筋が見え始
めました。（地方私立大学・職員）

最先端の情報や取り組み事例をお持ちの先生方や他大学の方から、知識と刺激を沢山いただき、自学での改革に向
けた一歩を踏み出すきっかけをいただきました。インターンシップ担当とし、これほどインターンシップに向き合った時
間はありませんでしたが、今回改めて考えることができました。他大学との情報交換をさせていただき、発見や気づき
を得ることができました。（地方私立大学・職員）

講師の先生方からインターンシップに関して幅広い視点で知見が得られ、教育的効果の高いインターンシップにつ
いて基本的なことがイメージできた。また、自大学のインターンシップにおける課題を改めて認識でき、今後、取り組む
べきことが明確になった。充実し、かつ示唆に富んだ講義内容から改めてインターンシップを大学で実施する意義を
見出せ、さらに参加者間の交流で多くの気づきがあった。（地方公立大学・職員）

参加者のインターンシップ関連業務年数



昨年度のアンケートより一部抜粋

【お問合せ先】

一般社団法人産学協働人材育成コンソーシアム 事務局

〒105-0004 東京都港区新橋 2-20-15 新橋駅前ビル1号館 9 階

e-mail : info@j-ciac.org

(担当:品川)

お問い合わせ、ご連絡はメールにてお願いします